

# 未来づくり懇談会（中）会議録

日 時：平成29年7月28日（金）

18：30～20：45

場 所：中自治公民館

出席者：市長、教育長、総合政策部長、  
スポーツ推進班長

1 開 会 18：30 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

○（仮称）とちぎフットボールセンターの整備について

・資料に基づき、経過等を説明。

現在は、たかはら那須スポーツクラブ（以下「TNS」）から提出された内容を精査しているところ。その上で議会や地域住民の理解が得られれば、進めていきたいと考えている。

|          |   |
|----------|---|
| 平成28年9月  | 民間活力導入可能性調査業務を委託                            |
| 平成29年6月  | 民間活力導入可能性調査の結果を議会全員協議会で報告。                  |
| 平成29年7月  | NPO法人たかはら那須スポーツクラブから民設民営での実施提案書提出。          |
| 平成29年10月 | 事業計画検証業務を委託<br>検証結果、実現可能性ありと報告。             |
| 平成29年12月 | 12月定例会でNPO法人たかはら那須スポーツクラブに施設整備及び運営を委ねる旨を表明。 |

Q1 収入の見込みはどうなっているか。

A1 TNSから年間3,000万円規模で運営をしていけるとの内容の提案を受けている。規模を縮小し、グラウンドの使用料金の引き上げを行っても、県北ではサッカーグラウンドが足りないので利用者が見込めるとの見通し。

Q2 場所について、第2種住居地域ということだが、用途地域の変更は絶対にできないのか。

A2 変更の手続き等は示されている。都市計画法上の用途の規制は用途地域内に住む方に対して、一方的な規制をかける種類のもの。安易に変更するのは難しいと考えている。

Q 3 スタジアムを作れば人が呼べて、収入があって、市の財政も潤う。当初スタンドは絶対に作れないという話だったが、何とか作る方法はないのか。

A 3 観覧できないが、「する」スポーツだけではなく「見る」スポーツも、矢板市はスポーツツーリズムを推進しているので、詳細な計画が出た段階で県の担当に問い合わせを考えている。

Q 2 サッカー場1面分が空き地になるが、どのような利用を考えているか。

A 2 現在は全くの白紙。ただ、単なるサッカーグラウンドではなく、矢板市民の健康づくり、生きがいづくりの場として整備していく。また、スポーツツーリズムの推進拠点にもしていきたいと思う。

Q 3 フットボールセンターで年間どれくらいの利用者数を見込んでいるのか。

A 3 利用者数の提案はない。利用時間数で収入は計算している。例としては平日2時間使う、休日は7時間使うなど、それを積み上げて収入とし、人件費などの収支で年間300万円のプラスが出るとの提案を頂いている。

Q 4 最終的にTNSの案で進めるのか。今まで市で作った施設は中途半端で終わっているのだから、体育館も含めてきちんとしたものを整備してほしい。

A 4 体育館になるかどうかは別として、グラウンドの機能が高まるようにしていきたい。例えば、サッカー関係者の方からグラウンドで雨が降った時に屋根があるようなものが隣接しているとありがたいという声があるので、残された1/3のスペースも最大限活用して取り組ませて頂きたい。

Q 5 TNSの案で計画を進めた場合、規模が縮小することになるが、補助金が削減されるようなことはないのか。

A 5 規模が縮小されたりしても、補助金の額は変わらない。サッカー振興くじについては、逆にTNSが事業主体になった方が補助金の額が増える可能性がある。

Q 6 これから少子化の時代を迎える中、TNSの計画は大丈夫なのか。途中で撤退ということはないのか。

A 6 TNSから定期借地権方式で借りたいと申し出を受けている。その期間は10年と想定している。仮に10年経たずに撤退した場合、原状復帰して返して頂くということを協定書の中に盛り込んでいきたい。

Q 7 健康増進施設は作らないのか。6月議会では城の湯の改修でそれを作らない代わりにフットボールセンターに作るということだったが、市で予定はないのか。

A 7 当初計画の中では説明をしたが、フットボールセンターの計画を見直している中で、すぐに結論は出せない。また公共施設再配置計画に着手しており、老朽化しているスポーツ施設の再編統廃合に取り組まなくてはならない。しかし、健康

づくり、生きがいつくりの拠点にふさわしい施設だという認識には変わりはない。

## 5 意見交換

Q 1 矢板市職員の採用について、人物重視ということだが、どういうことなのか。学力試験なし、面接書類だけで人物像は一日二日で分かるのか。

A 1 学力試験なしとしたのは建築土木職及び保健師のみ。一般事務職については例年通り教養試験を実施する。特に建築土木職については、昨年度募集をかけたところ応募をした人が一人もいなかったという事情がある。人物像については、集団討論・通常の面接と二段階、二日間行う。通常の学力試験を受けた人よりも時間を取って面接し人となりをも多角的に見ていく。

Q 2 市内の一斉清掃は早い段階で行うべき。種がこぼれて根が張ってからでは遅い。

A 2 地域の皆様により積極的に参加して頂けるような環境づくりが必要と考えている。例えば市の方で保険の費用や道具の費用、緑化の費用などを持つことはできないかと考えている。

Q 3 部長制にしたのは何のためか。

A 3 課制のときも参事兼課長と副参事兼課長の二通りであった。参事兼課長は、今までも複数の課をまとめた、部長級の待遇であったので、対外的にも部長を名乗ってもらい責任の所在をより明確にする意味で部制に踏み切った。

Q 4 副市長を置かないで、市長の代理が必要な場合はどうするか。

A 4 副市長の職務代理に総合政策部長を指定している。特に危機管理への対応については、危機管理監という役職を設け万全を期する体制を取っている。

Q 5 中安沢道路について、平成27年9月に議会で可決され、設計は4月に終わったが着工はいつになるのか。

A 5 予算がなく議会で陳情が採択された路線にも整備に着手できていない。要望順ではなく、優先順位を検討し、優先度が高い順に行うことで進めている。ちゅーりっぷ保育園の周辺ということもあり、改めて検討する。

Q 6 ボランティアを管轄する課はあるのか。

A 6 一元的に取りまとめている課はないが、主に社会福祉課が対応しているケースが多い。他の市町村の例を見ると、社会福祉協議会の中にボランティアセンターを置き、ボランティアの派遣などの業務にあたっているのを参考にしたい。

Q 7 矢東高に矢板市民の生徒がどんどん減っている。中学校の成績が伸び悩んでいるのでは。

A 7 選抜の方法が学力よりも適性検査が中心になるので、必ずしも学力だけで入れているわけではない。矢板市の子どもが減っているということは確実に掴んで

いないが、小学校、中学校に協力は要請していきたい。

Q 8 中学校の海外派遣が、矢板東中に行っている矢板市民は枠外になり、応募ができない。

A 8 今は、矢板、泉、片岡の3中学校から推薦を頂いているが、矢東中は推薦を頂いていない。矢東中に声をかけるのは来年度から考えていきたい。

平成30年度 矢板東高校附属中学校も追加する。

Q 9 新聞で松島地区は受け入れの延長はしないと掲載されていたが、どのように対応するのか。

A 9 2市2町の市町長でお詫びと現在の施設を平成30年11月30日以降も使わせてほしいとお願いしてきた。さくら市三行政区、松島、小入、早乙女の代表者の回答としては、もうこれ以上は駄目だとのこと。塩谷広域行政組合としては、改めて三行政区の役員の方に何とかお話を聞いてもらえるようお願いしている。

Q 10 何かにつけて財政難といっているが、国・県から補助は受けているのか。

また、予算特集号を見ると国・県からの予算額が少ないように思う。

A 10 これからの時代、国や県から補助金をもらえる確率は額的にもパーセンテージ的にも少なくなっている。地方創生拠点整備交付金については、県内では一番交付金を頂いている。またスマートICも、要望額以上の額を頂いている。

Q 11 矢板駅東口ロータリーの時計台について

A 11 時計台を修繕・撤去するかは矢板ロータリークラブから寄付を受けた時計なので、ロータリークラブと相談して最終的な判断をしたい。

平成29年12月 矢板ロータリークラブの寄付により、時計の交換及び塔の塗り替えを実施。

Q 12 長峰公園中央広場に「野外ステージ」を設置してほしい。

A 12 平成27年12月定例会で同様の陳情を受け、その際は不採択となっている。理由として長峰公園は市民の憩いの場であり、景観が損なわれる点やイベントの規模が違うため安全性への配慮が必要とのことであった。市がお金を出すのではなく、市民の皆様に協力頂き、場合によっては部材を持ち寄ることも考えられるので、今後検討したい。

Q 13 河川愛護を推進している矢板市で市職員が誰一人参加しないのは如何なものか。

A 13 市職員も一市民として、各行政区の行事に出てもらおうようにしている。声掛けはしっかりさせていただく。

Q 14 学校の統合についてどう考えているか。

A 14 学校規模はさまざま、どういう風にしていくかは難しい。市の再配置計画の

公共施設40%カットの対象に学校も入っている。今後十分検討させて頂く。

|         |                      |
|---------|----------------------|
| 平成30年3月 | 矢板市公共施設再配置策定計画を策定    |
| 平成30年6月 | 矢板市立小中学校適正配置検討委員会を設置 |

Q15 矢板は人口3万人を切るのは目の前、市町合併について考えているか。

A15 平成の大合併に続くような合併はいずれ迫られる。どこで合併するかということだが、相手があること。

6 閉 会 20:45